

「私たちのちかい」についての親教

本願寺新報
hongwanji journal

11月23日(金曜日)
毎月1日・10日・20日発行

発行所 **本願寺新報社**
京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺)
〒600-8501 本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753

秋の法要 ご親教 号外

11月22、23日に本山恒例の「秋の法要」(全国門徒総追悼法要)が阿弥陀堂で営まれた。23日10時30分からの法要に引き続き行われたご親教で、ご門主は、若者をはじめとした方々を対象に「念仏者の生き方」のお心を体したご教示「私たちのちかい」を述べられた。

「私たちのちかい」示される 「念仏者の生き方」の肝要四力条に

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかという点について、詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四カ条にまとめました。

私たちのちかい

- 一、自分の殻(から)に閉じこもる(こも)るな
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします
微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさ(おろかさ)に流されず
しなやかな心と振る舞いを心がけます
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にする(こ)なへ
人と喜びや悲しみを分かち合います
慈悲に満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき
日々(ひび)に精一杯(せいいっぱい)とめます
人びとの救いに風(かぜ)を吹く(ふ)くように

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会(きかい)で唱和(しょうわ)していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命(めいしん)であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

二〇一八(平成三十)年十一月二十三日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳